特　集

'67 年の土木界

■はじめに

蝉の鳴く夏の暑い日，編集委員会を開催して本年度の「回顧と展望（仮称）」等の編集について協議した。席上，この企画は広範な専門分野を持つ土木界の話題を通読することよって知ることができるので，本年もぜひ続けて載せるべきであるという企画続行案と，そろそろマンネリ化したので，この辺で何とか新しい手を打とうという声が出て，大いにもめたものであった。結果的には両者の折衷案ともとれる〝年度内の話題を中心に，おもしろく記述する〟という新しい編集方法におちついた。この辺の事情として，昨年より刊行され始めた土木年鑑（土木学会土木年鑑編集委員会編）の中に，いままでの回顧と展望の形式に近い記述方法があり，部門別の年度内の動きは年鑑に詳しいので，今回の特集ではその辺の記述については割愛しようという意見があった。本年の特集方式は，まず年内のビッグ ニュース を委員会で選び，その中から最も適切であると思われるもの 17 件を抽出，各担当委員を中心に執筆に入っていただいた。しかし，結果的には自画自賛の形になるが，最初に選定したビッグ ニュースの中の多くのものは，すでに会誌の記事として紹介済みであったことから，途中で企画を修正せざるを得ない面もあり，必ずしも最後に残った 17 件が本年のビッグ セブンティーンではないことをお断わりしておきたい。なお，全体を通読されれば判るように，年間の主だった動きには十分ふれていると考えている。

本年の土木界は，高速道路の建設，山陽新幹線，関門架橋の着工，本四連絡橋の調査，青函トンネルの調査工事など，大規模な工事や計画の話題も豊富であったが，また一方では，おしよせる技術者不足，産業基盤の不備をせめる声，そして公害，交通災害等，社会問題化した都市問題など，今までの土木技術界では考えられなかったような新しい事象も出てきており，日進月歩する複雑な社会に対応して今後に残された課題はあまりにも多いように感ずる。このことは，とりもなおさず社会が土木技術者により大きな期待を寄せていることでもあり，少なくとも本会の会員諸君はこの点にかんがみ，いっそうの精進が特に望まれているものと思われる。

本特集に際して，下記の諸君はじめ，多くの方々に多大なご協力をたまわった。記して謝意を表したい。

［会誌編集委員会］

■執筆者（五十音順）

飯島　滋	植村　元栄	大西　璋	小笹　太郎	片瀬　貴文	川村　光雄
菊川　哲士	国広　哲男	佐藤　幸甫	沢田　健吉	高橋　通夫	田村　浩一
富永　正照	土居　則夫	中道　文基	南部　牂一	縄田　照美	西原　巧
長谷川重善	平出　啓見	増岡　康治	松下　勝一	峯本　守	持田　三郎
吉田　巌	吉田　正吾				